

## 【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

## 東久留米市立小山小学校 第5学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<p>・物語の登場人物の気持ちの変化や説明文の問題提示、事例、筆者の考えなどを読み取り、自分の意見を伝えられる姿は1学期のワークテストの正答率が73%である。しかし、昨年度の市学力調査からの分析によると、言語能力に関する内容の得点率が全国の得点率を2ポイント下回っている。</p>	<p>・学習の中で使えそうな接続詞や表現技法を可視化することで、日常的に言葉に着目して活用できる環境を整え、言葉への着目を促す。そういった手立てにより言葉へ着目し、深く文章を読み取る問題への正答率90%を目標とする。</p>
算数	<p>・全体的に計算力に課題の見られる児童が多い。単元末テストでも「平均」、「倍数と約数」、「単位量あたりの大きさ(1)」の正答率が80%未満と低い数値になっている。また、昨年度の市学力調査からの分析によると、「割合」を求める問題では全国得点率から8ポイント下回っている。</p>	<p>・まずは立式ができるように「数直線」や「4マス表」を活用して式が立てられることを確実に伝えていく。その上で、日々の自主学習や計算ドリルなどで計算力の向上をねらい、まずは80%の正答率を目指していく。</p>
社会	<p>・土地の高低や気候のちがいをなどの社会的事象について、興味をもって調べ、まとめたことを発表できるようになってきた。しかし、自分事として捉えたり、社会科の見方・考え方を意識しながら調べ学習を進めたりすることができる児童はノートや調べ学習の作品を評価すると60%程度である。</p>	<p>・活動に応じた社会科の見方・考え方をワークシートに明記し、調べ学習の際に見返しながら、常に意識して調べ学習をすすめることができるようにすることで、社会科の見方・考え方を働かせて課題解決できる児童を80%以上にする。</p>
体育	<p>・「立ち幅跳び」「50m走」「シャトルラン」の三項目は全国平均値よりも男女ともに上回っているものの、「ボール投げ」は全国平均値を1ポイントほど下回っている。</p>	<p>・ボール運動領域に特に力を入れ、「ボール投げ」をする活動を意識的に取り入れていく。また、外部団体を招き、指導を仰ぐことでさらに投力をのばせるようにする。来年度までに男女ともに全国平均値を上回ることができるようにしていく。</p>